

大岡地区公共交通推進住民協議会の運営

大岡連合自治会 大岡地区公共交通推進住民協議会

団体概要

公共交通空白地域となっている大岡地区の「自立した、持続可能な」地域の公共交通創出を目指す。

社会実験実施に向けた様々な研究や協議、視察を行う。

沼津市大岡2357-1

<http://www.e-ohoka.com/> （大岡コミ）

Tel & Fax 055-924-0299 E-Mail info@e-ohoka.com

背景

大岡地区では地域内を走るバス路線が廃止されて住民の生活の足が失われました。10年以上前から地域の要望として公共交通の復活を掲げています。また近年、高齢者の独居世帯が増え、買い物や通院の足に不安を抱えている方が多いです。過去の地域の話し合いを通じてこの地域に福祉目的の公共交通を走らせたいという機運が高まっています。

実施概要

大岡連合自治会では5月の総会で本協議会事業を積極的に推進し、特に今年度は来年度の社会実験実施に向けたディテールについての検討を大きな目標としました。主な活動内容としては、

- ① 早稲田大学の井原雄人准教授の指導の下、二度行われた、大岡地区での住民勉強会
- ② 川崎市の宮前区等で行われている住民主体の協議会の設置や地域公共交通の本格運行までの取り組みの視察
- ③ 沼津市地域公共交通網形成計画に対する住民説明会への参加
- ④ 愛知県北設楽郡で行われている「公共交通活性化協議会」の運用と、空白地（過疎地）有償運送の視察
- ⑤ アイシン精機による「チョイソコとよあけ」オペレーションシステムの視察と試乗

です。

スケジュール

●令和元年6月11日(火) 19:00～21:00 大岡地区センター

第1回 大岡地区公共交通推進住民協議会

- ・大岡地区住民（約40人）
- ・早稲田大学スマート社会技術融合研究機構電動車両研究所 研究院客員准教授 井原 雄人
- ・沼津市まちづくり政策課

●令和元年7月18日(木) 13時30分～15時20分

大岡地区公共交通推進住民協議会 川崎市視察 川崎市宮前区役所 視察

参加者 大嶽信久会長、鈴木基之、芹沢仁、高橋則雄 事務局 高橋達也

大岡地区の公共交通推進住民協議会の今後の活動を考える上で、他地区先進事例を参考にしたいと考え、

- ①地域の有志による協議会での議論を経ている
- ②コミュニティバスを実際に数年間運行している実績がある
- ③地域の実情に合った複数の運行形態が市内にある

という条件を満たしている川崎市に視察研修を行った。

担当者 川崎市まちづくり局交通政策室地域交通対策課・宮前区役所企画課

スケジュール

●令和元年9月5日 沼津市地域公共交通網形成計画 まちづくり政策課 説明会参加

対象地区 大岡、門池、金岡、第五

●令和元年10月3日

大岡地区公共交通推進住民協議会

愛知県北設楽郡公共交通活性化協議会視察研修

●令和元年10月11日 次年度の要望書（社会実験実施）を沼津市に提出

要望書 大岡連合自治会 会長 渡邊修司／大岡地区公共交通推進住民協議会 会長 大嶽信久

●令和元年10月17日 19:00～20:45 大岡地区センター

第7回 大岡地区公共交通推進住民協議会 議事録

- ・大岡地区住民（約30人）
- ・傍聴市議会議員 深田 昇
- ・早稲田大学スマート社会技術融合研究機構電動車両研究所研究院客員准教授 井原 雄人
- ・沼津市まちづくり政策課 遠藤主査・江藤副主任

★大岡地区公共交通についてのアンケート中間報告



スケジュール

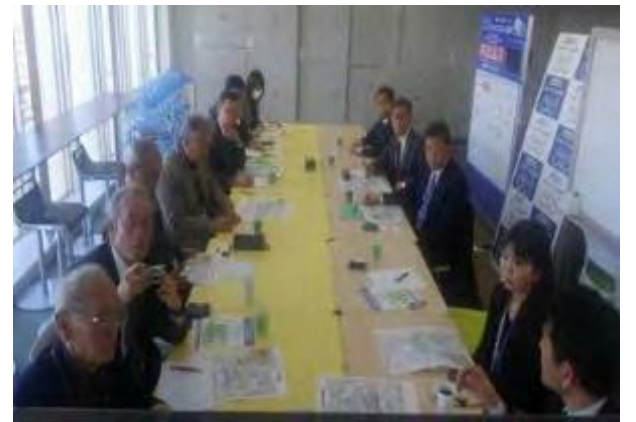
●令和元年11月11日 大岡地区商業施設の責任者の方への説明会

●令和2年1月21日アイシン精機「ちょいそこ豊明」視察

- ・大岡連合自治会長、大岡コミ副会長3名、民児協企画委員長、沼津市職員、事務局
- ・沼津市役所 係長、主任
- ・ダイハツ沼津 部長、課長 以上計10名

◎午後1時より、アイシン精機会社内にて「チョイソコとよあけ」のオペレーションのシステム説明。

◎午後2時より豊明市に移動し実車に試乗。



●令和2年2月17日

ダイハツ工業(株)、ダイハツ沼津販売、アイシン精機(株)、沼津市役所まちづくり政策課との協議

成果指標と事業効果

前年度までは大岡連合自治会内で協議会を作り住民同士の話し合いを行ってきたが、本年度は川崎市と設楽町、豊明市への視察のほか、地域の商業施設責任者、タクシー事業者との意見交換、早稲田大学の井原准教授の講演、地元自動車販売業者のダイハツ沼津等との本件に関する様々な検討を行うことができた。

様々な検討の中から、地域の中でのあるべき公共交通の姿を大きく3つに絞ることができた。次年度はその中から住民の検討を経て一つの形態での社会実験を行いたい。

今後の課題・これからの展望・自己評価

社会実験を次年度行うことを決定したが、運行形態の決定や、運行事業者の選定、住民への周知当課題は山積している。

次年度は住民協議会の中でこれらを議論し、速やかに方策を決定していかなければならない。

また、新型コロナウイルスの感染拡大とともに公共交通の利用が敬遠される気配もあるので、これらの配慮を考えていかなければならなくなっている。

令和元年度の活動については概ね当初の予想通りの活動ができた。私たちの活動について民間企業が関心を寄せ、新たなビジネス創出につなげようとした動きがあったことも特筆すべき事柄だと思う。